

- 今般、新たに策定するロードマップでは、その実行を確実なものとするため、進捗状況を定期的に確認するとともに、社会情勢や技術開発等の動向に基づきプロジェクトや取組への評価、課題の整理、対応策の検討等を行うこととしている。
- こうした評価等を行うため、研究者、専門職、ジャーナリスト等の5名程度の第三者で構成する評価WGを設置する予定。
- 分野ごとに事業者等のヒアリングを行い、現状や将来目標の達成の蓋然性等のフォローアップを年1回程度実施していく。

## 水素・燃料電池戦略協議会

有識者による評価WG

### 水素サプライチェーン

※「革新的技術開発」の「製造」、「輸送・貯蔵」を含む。

評価項目

- ✓ 水電解装置システムコスト（20万円/kW→2030年5万円/kW）
- ✓ 水素液化効率の向上（液化原単位13.6kWh/kg→2020年代前半6kWh/kg） 等。

### 水素利活用

※「革新的技術開発」の「利用」を含む。

評価項目

- ✓ FCVの実質的な価格差低減（300万円→2025年頃70万円）
- ✓ 水素ST個別機器のコスト目標（圧縮機0.9億円→2025年頃0.5億円） 等。

- このフォローアップにより、方針転換の必要が生じた場合には、原因を検証し、方針転換を含めて取り組んでいく。
- 本年春頃以降、各分野における現状の整理を行い、評価WGを実施していく。